

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

群馬県 館林市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>2</sup> 当たり家庭料金(円)
-	68.56	48.95	61.23	2,970

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
73,667	60.97	1,208.25
35,895	8.80	4,078.98

## グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和6年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率(%)は100%を超えるが、これは、一般会計からの繰入金によるものであるため、さらなる使用料収入の確保、維持管理費等の費用の削減が必要となる。
- ②累積欠損金比率(%)は発生していない。
- ③流動比率(%)は前年度よりも改善し、平均値を上回っている。引き続き、現預金の確保に努める。
- ④企業債残高対事業規模比率(%)は前年度から増加しているものの、平均値を下回っていることから、引き続き事業規模に見合った借入に努める。
- ⑤経費回収率は100%となっているが、今後使用料収入が減少することが見込まれるため、接続促進による使用料収入の確保、維持管理費等の費用の削減が必要となる。
- ⑥汚水処理原価は平均値を下回っているが、経営改善のためにさらなる汚水処理費の削減が必要となる。
- ⑦施設利用率(%)は平均値を上回っている。未整備地区が存在するため、整備が進むにつれて増加する見込みとなっている。
- ⑧水洗化率は100%に達しておらず、引き続き未接続世帯への接続促進に努める。

以上の分析から、公共下水道事業の経営改善のためには、さらなる使用料収入の確保、維持管理費等の費用の削減が必要となる。

### 2. 老朽化の状況について

本市の公共下水道施設は昭和49年に供用開始をしており、老朽化に伴い更新のための費用が年々増加している。

管渠においても、②管渠老朽化率が前年度よりも上昇しており、今後も増えいくことが想定されることから、管路施設の調査診断を実施している。今後、調査結果を基に、計画的な管路施設の更新を行っていく。

## 全体総括

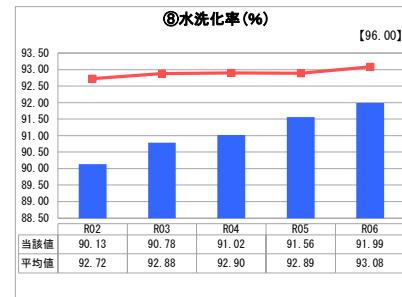
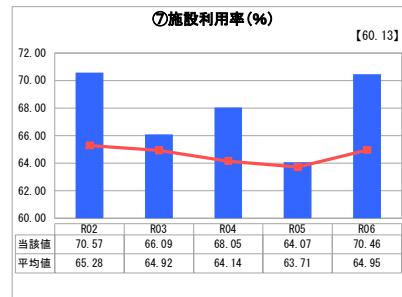
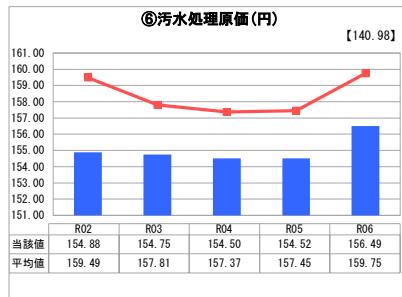
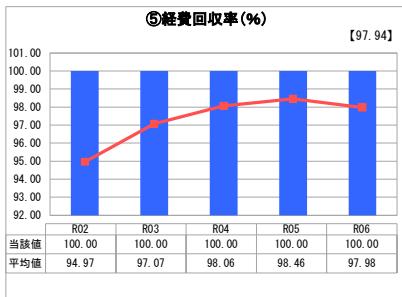
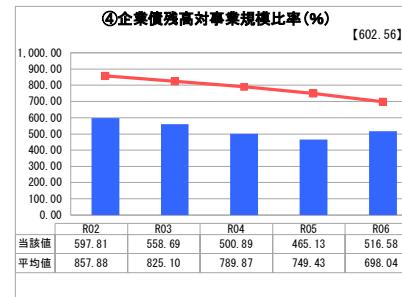
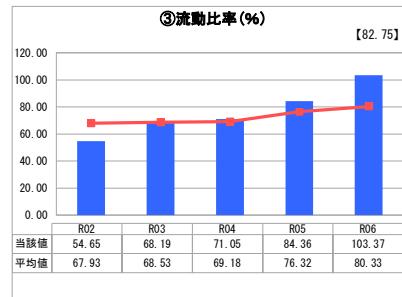
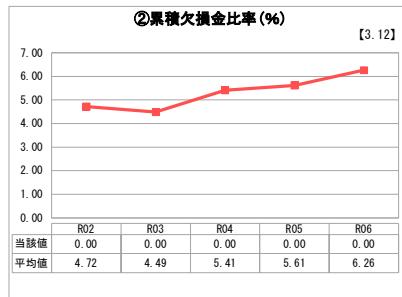
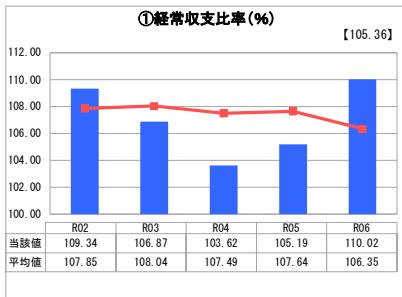
本市の公共下水道事業は、令和2年度より地方公営企業法の財務規定等を適用している。

使用料収入だけでは経営を維持することが困難であるため、一般会計からの繰入金（基準外）を頼りにしている状況である。

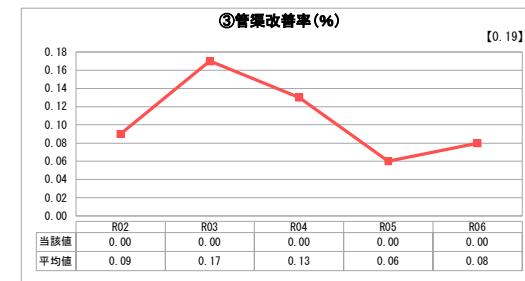
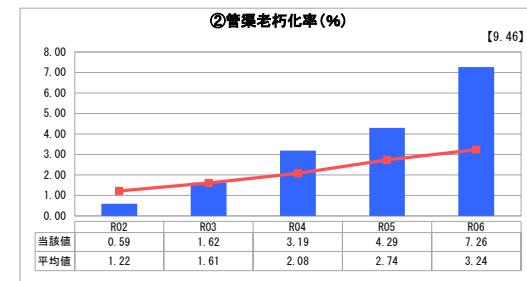
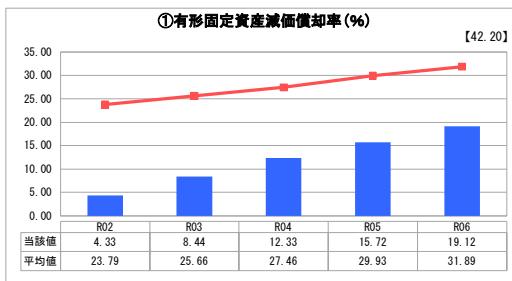
下水道の整備もまだ完了していない地区があることから、計画的な整備を行い、水洗化率の向上、使用料収入の確保、維持管理費等の費用の削減を行う必要がある。

さらに、老朽化に伴う更新費用の増大が見込まれることから、ストックマネジメント計画及び経営戦略を考慮し、計画的な更新を行っていく必要がある。

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。